

【ネットカンファレンス プレゼンテーション資料】
2016年度 第3四半期決算

2017年2月7日
住友商事株式会社

将来情報に関するご注意

本資料には、当社の中期経営計画等についての様々な経営目標及びその他の将来予測が開示されています。これらは、当社の経営陣が中期経営計画を成功裡に実践することにより達成することを目指していく目標であります。これらの経営目標及びその他の将来予測は、将来の事象についての現時点における仮定及び予想並びに当社が現時点で入手している情報に基づいているため、今後の四囲の状況等により変化を余儀なくされるものであり、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。したがって、これらの情報に全面的に依拠されることは控えられ、また、当社がこれらの情報を逐次改訂する義務を負うものではないことをご認識いただくようお願い申し上げます。

1. 経営成績

BE THE BEST. BE THE ONE

(単位:億円)	2015年度 第3四半期実績 ①	2016年度			2016年度 第3四半期実績 ②	前年同期比 ②-①
		第1四半期 単独	第2四半期 単独	第3四半期 単独		
当期利益	613	227	431	457	1,115	+502
基礎収益 (除く、減損損失) *1	1,600	411	509	606	1,525	△74
うち、資源ビジネス*2	16	△60	27	88	55	+40
うち、鋼管事業*2	△14	△21	△44	△23	△89	△75
うち、その他非資源	1,598	491	526	541	1,559	△39
一過性損益	約 △860	約 △140	約 △30	約 △150	約 △320	約 +540

〈 2016年度第3四半期実績 (前年同期比) 〉

- **資源ビジネス** : ✓ コスト削減・販売数量増加により増益
- **鋼管事業** : ✓ 油価低迷の影響により減益
- **その他非資源** : ✓ 船舶事業 減益 (海運市況低迷)
: ✓ 自動車販売事業 減益 (新興国市場低迷)
: ✓ メディア・生活関連 国内事業会社、リース事業等 堅調
- **一過性損益** : ✓ (当期) チリ銅・モリブデン事業における減損損失 (△336億円)、
ボリビア銀・亜鉛・鉛事業 税引当等あり
: ✓ (前期) 減損損失*3、資産入替に伴うバリュー実現等あり

(参考) 主要指標	2015年度 第3四半期実績	2016年度 第3四半期実績
為替 (YEN/US\$)	121.74	106.65
金利 LIBOR 6M(YEN)	0.13%	0.00%
金利 LIBOR 6M(US\$)	0.52%	1.10%
銅※ (US\$/MT)	5,707	4,724
亜鉛 (US\$/MT)	1,883	2,229
ニッケル (US\$/lb)	5.73	4.52
鉄鉱石 (US\$/MT)	53	62
原料炭 (US\$/MT)	97	126
原油 Brent※ (US\$/bbl)	56	42
原油 WTI (US\$/bbl)	49	47

*1 基礎収益=(売上総利益+販売費及び一般管理費(除く貸倒引当金繰入額)+利息収支+受取配当金)×(1-税率)+持分法による投資損益

*2 海外現地法人・海外支店セグメントの業績を、資源ビジネス・鋼管事業の業績に含めて算出した参考値

*3 合計: △1,116億円 (マダガスカルニッケル事業 △770、南アフリカ鉄鉱石事業 △183、チリ銅・モリブデン事業 △140 等)

* ※印の商品は1-9月、その他の商品は4-12月の価格を記載
* 原料炭・強粘結炭(市場情報に基づく一般的な取引価格)

◆ Sumitomo Corporation

Copyright© Sumitomo Corporation All Rights Reserved.

➤ 当第3四半期累計当期利益: 1,115億円(前年同期比+502億円)

(主な要因)

✓ 一過性損益 約+540億円(約△860億円→約△320億円)

前年同期: マダガスカルニッケル事業など複数資源案件で

約1,100億円の減損損失を計上

当 期: チリ銅・モリブデン事業の減損損失336億円など

➤ **基礎収益(除く、減損損失): 1,525億円(前年同期比△74億円)**

資源ビジネス: ニッケル、銅などの価格下落の影響があるものの、石炭、亜鉛などの価格上昇、コスト削減、販売数量の増加などにより増益

鋼管事業: 油価低迷の影響によるパイプ需要の戻りが遅く減益

その他非資源ビジネス: メディア・生活関連の国内主要事業会社やリース事業が堅調に推移した一方、船舶事業及び自動車販売事業が低調に推移したことに加え、円高の影響もあり減益

➤ **基礎収益四半期トレンド**

資源価格回復により資源ビジネスが増益基調となっていることに加え、その他の非資源ビジネスが安定した収益を計上しており、全体では堅調に推移

2. キャッシュ・フロー／財政状態

BE THE BEST. BE THE ONE

● キャッシュ・フロー実績

(単位：億円)	2015年度 第3四半期	2016年度 第3四半期
営業活動	+3,913	+2,227
投資活動	△1,332	△521
フリーキャッシュ・フロー	+2,581	+1,706
△		
＜キャッシュ・イン＞		
基礎収益キャッシュ・フロー*	+1,498	+1,684
減価償却費	+912	+862
資産入替による回収	約 +800	約 +1,200
その他の資金移動	約 +1,700	約 △300
＜キャッシュ・アウト＞		
投融資実行	約 △2,300	約 △1,700

* 基礎収益キャッシュ・フロー = 基礎収益 - 持分法による投資損益 + 持分法投資先からの配当

- ＜2016年度第3四半期＞
- 基礎収益キャッシュ・フロー
 - ✓ コアビジネスが着実にキャッシュを創出 (J:COM、三井住友ファイナンス&リースからの配当等)
 - 資産入替による回収
 - ✓ バツ・ヒジャウ 銅金鉱山権益売却
 - ✓ 爽快ドラッグ 売却等
 - 投融資実行
 - ✓ 米国オフィスビル取得
 - ✓ 英国洋上風力発電事業参画等

● 財政状態

2015年度末 総資産 7.8兆円		2016年度第3四半期末 総資産 7.9兆円	
流動資産 3.4兆円	その他の負債 1.9兆円	流動資産 3.5兆円	その他の負債 2.1兆円
	有利子負債 3.7兆円		有利子負債 3.5兆円
	(現預金Net後) 2.8兆円		(現預金Net後) 2.6兆円
非流動資産 4.4兆円	株主資本*	非流動資産 4.4兆円	株主資本*
	2.3兆円		2.3兆円
D/E Ratio(Net) : 1.2		D/E Ratio(Net) : 1.1	

* 株主資本：資本の内、「親会社の所有者に帰属する持分合計」内、「在外営業活動体の換算差額」：1,994億円→2,012億円、「FVTOCIの金融資産」：1,426億円→1,711億円

- ＜2016年度第3四半期増減＞
- 総資産 +736億円 (78,178億円→78,914億円)
 - ✓ 円安の影響による増加
 - ✓ 資産入替による減少等
 - 株主資本 +772億円 (22,515億円→23,287億円)
 - ✓ 当期利益の積み上げ

	2015年度末	2016年度 第3四半期末
為替 (YEN/US\$)	112.68	116.49

(参考) BBBO2017^(*)キャッシュ・フロー計画進捗

キャッシュ・イン	キャッシュ・アウト	(単位：億円)
+17,000	△17,000	
基礎収益	配当	
キャッシュ・フロー	△2,000	
+5,000		
減価償却費	新規投資 及び 更新投資	
+3,000	△10,000	
資産入替 による回収		
+6,000		
その他の 資金移動	有利子 負債返済	
+3,000	△5,000	
3年合計計画		
(2015年4月～2018年3月)		
キャッシュ・イン	キャッシュ・アウト	
+11,200	△11,200	
+3,700	△1,200	
+2,100	△4,400	
+3,500	(*)	
+1,900	△5,600	
累計実績		
(2015年4月～2016年12月)		

(*) 当社は、2015年4月～2018年3月の3カ年を対象とする現行の中期経営計画「Be the Best, Be the One 2017(BBBO2017)」において、3年合計で配当後フリーキャッシュ・フローを5,000億円確保し、回収した資金で有利子負債を返済する計画としております。

(*) 配当後フリーキャッシュ・フロー累計実績のマイナス値を記載しております。

➤ 当第3四半期累計フリーキャッシュ・フロー：1,706億円のキャッシュ・イン

- ✓ 基礎収益キャッシュ・フロー：1,684億円のキャッシュ・イン
- ✓ 資産入替による回収：約1,200億円のキャッシュ・イン
インドネシアのバツ・ヒジャウ鉱山権益や爽快ドラッグの売却など
- ✓ 投融資実行：約1,700億円のキャッシュ・アウト
米国オフィスビルの取得や英国洋上風力発電事業参画など

➤ 財政状態

- ✓ 総資産：7兆8,914億円(前期末比+736億円)
資産入替による減少があった一方、円安の影響あり
- ✓ 株主資本：2兆3,287億円(前期末比+772億円)
主に当期利益の積み上げによるもの

3. 2016年度 通期見通し

BE THE BEST. BE THE ONE

(単位:億円)	2016年度 通期見通し (2016年11月公表) ①	第1四半期 単独	第2四半期 単独	第3四半期 単独	2016年度 第3四半期実績 ②	進捗率 ②/①
当期利益	1,300	227	431	457	1,115	86%
基礎収益 (除く、減損損失) *1	1,800	411	509	606	1,525	85%
うち、資源ビジネス*2	△100	△60	27	88	55	-
うち、鋼管事業*2	△100	△21	△44	△23	△89	-
うち、その他非資源	2,000	491	526	541	1,559	78%
一過性損益	約 △400	約 △140	約 △30	約 △150	約 △320	-

〈 2016年度通期見通しの進捗状況 〉

- **資源ビジネス** : ✓ 資源価格は見通しを上回って推移
- **鋼管事業** : ✓ 収益回復には時間がかかる見込み
- **その他非資源** : ✓ メディア・生活関連 国内主要事業会社、リース事業 等のコアビジネスは堅調に推移
- **一過性損益** : ✓ チリ銅・モリブデン事業における減損損失 (△336億円) あり
✓ 第4四半期に一部の事業において減損損失発生の可能性あり

(参考) 主要指標	2016年度 通期見通し (2016年11月)	2016年度 第3四半期 実績
為替 (YEN/US\$)	100.00	106.65
金利 LIBOR 6M (YEN)	0.00%	0.00%
金利 LIBOR 6M (US\$)	1.10%	1.10%
銅※ (US\$/MT)	4,766	4,724
亜鉛 (US\$/MT)	2,048	2,229
コークス (US\$/lb)	4.24	4.52
鉄鉱石 (US\$/MT)	52	62
原料炭 (US\$/MT)	89	126
原油 Brent※ (US\$/bbl)	44	42
原油 WTI (US\$/bbl)	46	47

*1 基礎収益 = (売上総利益 + 販売費及び一般管理費(除く貸倒引当金繰入額) + 利息収支 + 受取配当金) × (1 - 税率) + 持分法による投資損益
*2 海外現地法人・海外支店セグメントの業績を、資源ビジネス・鋼管事業の業績に含めて算出した参考値

* ※印の商品は1-12月、その他の商品は4-3月の価格を記載
* 原料炭・強粒活性炭(市場情報に基づく一般的な取引価格)

➤ 景況感

- ✓ 世界経済は、米国新政権の政策の影響や英国のEU離脱交渉、中東などの地政学的リスクの高まりにより、先行きに対する不透明感は引き続き残るものの、米国を中心に緩やかな成長が続くと見込む
- ✓ また、国際商品市況は、商品ごとに強弱あるものの概ね堅調に推移すると見込む

➤ 通期見通し：2016年11月公表予想から修正を行っていない 第3四半期累計実績：当期利益、基礎収益共に85%以上の進捗

- ✓ 資源ビジネス：チリ銅・モリブデン事業における減損損失が発生したが、減損を除く基礎収益では、資源価格が想定を上回って推移しており、足元の価格が継続した場合、通期見通しからの上振れを見込む
- ✓ 鋼管事業：原油価格及びリグカウントの底打ち感が出てきているものの、業績の回復までには時間を要すると見る
- ✓ その他非資源ビジネス：メディア・生活関連の主要事業を中心に強含みで推移すると見込む

➤ 一過性損益：第4四半期に一部の事業で減損損失発生の可能性 基礎収益(除く、減損損失)：第3四半期に引き続き堅調に推移し、 通期見通し1,800億円を上回ると見込む

⇒ 当期利益1,300億円は達成可能と見込む